



悪霊の束縛から
解放されて

福地 俊子

**悪霊の束縛から
解放されて**

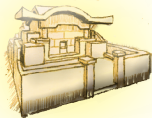
福地俊子

霊界への関心

身内や身近な人たちの死から異常なほどに霊界に興味を持つようになった私は、そのような読み物を手当たり次第にあさるように読み、ユタ（霊界との交通によって占いをする沖縄の霊媒）にもたびたび行き、死者との対話ができたらどんなにすばらしい事かと思っていました。



今から十年以上も前の事です、ある占いのやり方を見て、自分にもできるのではないかと思い早速まねてみました。すると次々に答えがあり、私は驚きと喜びで夢中になってしまいました。



占いを始めて五日目、旧のお盆の日に墓のない所からピカピカ光る金色の墓が見え、

「自分は内地のものだが吊う者がなくて迷っている霊だ。墓参りをして吊ってくれ」という声が聞こえました。また仏壇に手を合わせると戦争中亡くなった父の声も聞こえてきました。亡くなった身内や身近な人達の声が生前の声そっくりで聞こえてきました。

ユタからは、「あなたは大変靈感に強い。それで体が弱いのだ」と言われ、自分も霊媒になれるのだと喜びました。それが聖書で教えている悪霊とは知らずに、あくまでも死者の霊だと思い、夢中で占いをしました。台所の神は火事から家を守り、願い事をかなえる神だから拝むようにすすめられ、毎朝熱心に拝みました。以前はそのような事はなかったのですが、占いはじめるようになってから、そこを拝むと気分が悪くなるほど激しい震えが全身にあり、それも神様からだと思っていました。



悪霊にとりつかれて

最初は亡くなった身内や身近な人達の声だけでしたが、後からはそうではなく、非常に私の身を責める苦しい事ばかり起こりました。

一度は晩の九時ごろから翌朝五時ごろまで軒下に立ち通し、その時、一晩中間こえたのは、「裁判、裁判」という声だけでした。その翌日には、気違いに刃物とありますが、包丁の先のとがった方を上にして紙袋に入れ、それを右手にしっかり握り、車の多い道路を髪振り乱して走り続け「もっと速く、もっと速く」と言う声に力の限り走り、横断歩道でもない所を横切り、急ブレーキをかけてとまった車の運転手に怒鳴られたりしました。



た。しかし幸いにもちいさなけがだけでした。その翌日、悪霊は私を滅ぼそうと

して、「あなたは非常な苦しみが五日間続き、恐ろしい形相で悶え死ぬ。その事が新聞沙汰になり身内の者に迷惑をかける。それよりは首をくくったほうが楽に死ねる。そうすれば新聞沙汰にもならずにすむ。『早く首をくくれ』」としきりに脅迫する声、私もそのほうが楽に死ねる、そうしようと思いました。その時の私は霊の言うがままに行動し、自分の意思など全然なく、まるであやつり人形のようなでした。首つりのため一歩足を踏み出した途端、「自殺行為は殺人行為」という声が聞こえて、思わずその場に立ちすくみました。続いて、「救われるためには教会に行く事です」という声が聞こえてきました。それ以後は身边に危険な事は起こりませんでした。それから台所の床板の上に昼夜正座したまま縛り付けられたように動けませんでした。足のほうがただれて床板にくっつき、ちょっとしたでも体を動かそうとしようものなら非常な痛みにおそわれ、その間は食事もとれず、一

滴の水さえ飲めず一睡もできませんでした。
何か飲んだり食べたりすればもっと苦しい状態になるといわれたのです。

悪霊との葛藤

のどはからからで、つばさえ出ず声もかすれて出ません。その時ひたすら思った事は三十分いや二十分でもいい、横になってぐっすり眠りたいという事だけでした。一度は姉が買って来たばかりの牛乳でしたが、私が飲もうとすると腐っているようで飲めません。姉が飲むと大丈夫なのです。食前の祈りなどしたことがなかったのですが、以来食事を清めてくださいますようにと祈るようになりました。お寺でお払いなどをしてもらいました



が、「多くの悪霊に取り付かれているのでお払いではダメだ。一生狂人となるでしょう。牢屋にでも入れた方が

いいでしょう」といわれ、それからすぐ精神病院に入院しました。そこでも「今飲んだばかりの薬を、指をのどに突っ



込んで全部吐き出すように」という声が聞こえて、お手洗いにいき、そのようにしたりしました。しかし幻聴もなくなり二ヶ月で退院することができました。実は今から25年ほど前に、ある教会で洗礼を受けていたのですが、もう10年あまりも教会から遠のいていました。「救われるためには教会へ行く事です」という声が常に頭にこびりついていましたので、敷居の高くなった教会でしたが、退院後は教会に行かなければ又悪霊に取り付かれるのではないかと思う恐怖心から、体の具合が悪いような時でも、無理をして日曜日にはかさず教会に行くようになりました。その頃は、又何か声が聞こえるのではないかと不安でおびえる事も度々でした。ある時、「御霊の助けを祈るように」という声がしました。

私は何の事が理解できませんでした。



セブンスデーアドベンチスト教会との出会い

退院して一年ぐらいたった頃、親戚に不幸があって田舎に帰りました。初七日までは滞在する予定でしたので、教会は休もうと思っていたのですが、休む事が不安で仕方ありませんでした。近くには日曜教会がなかったので、それまで偏見をもっていた奥間のセブンスデー教会に行くことにしました。どの教会も同じ神様を礼拝しているのだからとあまり抵抗もなく土曜日に行く事ができました。たまたまその日は、「聖さん式」という儀式があって、同級生だったお友達が私の足を洗ってくださったのですが、その時、今まで抱いていた偏見がぬぐい去られる思いでした。安息日学校、教課研究（聖書を学ぶ

集い) ひざまずいての敬虔な祈り、日曜教会とは違うその一つ一つがすべて驚きでした。礼拝に出席した事がとても喜びでした。皆さんがとても親切にしてくださって、初めて行った教会とは思えないほど親しみを感じました。暖かいすばらしい教会だと思いました。しかし、どうして日曜日ではなく、わざわざ仕事を休んで土曜日に礼拝するのかという疑問がありました。教会から帰ってきてもその事が頭からはなれませんが、夕方になって人気のない公園に行き、「今行っている日曜教会が正しいのか、セブンスデー教会が正しいのか、神様どうぞ教えてください」と、一心に祈りました。答えはありませんでした。夜、床に入ってからそのことで目がさえて寝つかれず、隣の人が寝入ったので、夜中にそっと起きて又一心に祈り求めました。その時、「アドベンチスト」という声が聞こえてきました。しかしアドベンチストとは何の事か私にはわかりませんでした。それがセブ

ンスデー・アドベンチスト教会である事を知り驚きました。このようにして神様の不思議なお導きにより、私はあの恐ろしい過去から救われたのです。

私は病苦と不安から、おぼれる者がわらをもつかむ思いであちらこちらの教会、又新興宗教にも行きました。この教会で六ヶ所目です。どの宗教も霊魂不滅説です。セブンスデー・アドベンチスト教会で初めて、「死者は何事も知らない、眠りの状態である」又「週の七日目（土曜日）は創造の記念としてすべての業を休み神様を礼拝する日であること」そして「安息日（土曜日）は神様が祝福して



聖別された大事な日であるから守らなければならない事や、又み霊の助けがどんなに大事な事であるか」を学びました。御霊の助けによってもう二度と悪霊に取り付かれるような事は決し

てなく、必ず神様がお守りくださると確信する事ができました。セブンスデー・アドベンチスト教会は、真理を学ぶすばらしい教会です。神様は恐ろしい、たたる神として多くの人々に誤解されていますが、聖書を学ぶ事によって、真の神様は計り知れない慈愛深い方である事を知ることができます。



私は二十年余りも喘息を患いました。喘息とリュウマチ関節炎の痛みで眠れぬ夜は、このまま死ねたらどんなに楽だろうにと思った事も度々でした。喘息はなかなか根治できないと聞き、一生この苦しみは続くのかと思い、暗い日々をすごしました。しかし、セブンスデー・アドベンチスト教会に行くようになって半年目ぐらいからはすっかり癒されました。かぜをひいても喘息の発作がおこらなくなった時には、嬉しさのあまりじっとしておれずに、ステップを踏むように

しながら「神様ありがとうございます。感謝
でございます」とくり返しながら狭い部屋を
飛び回ったこともありました。不安と絶望の
暗い日々は、平安と希望の明るい日々に変わ
りました。イエス様を信じる事はとてもすば
らしい事です。この教会にお導きになりました
神様のお恵みに感謝の念でいっぱいです。
久しぶりに会う友達は私の変わりように目を
みはります。苦しみや災いはすべて益にして



くございました。数々のお恵
みをおあたえくございました。
今の自分がまるで夢のよう
です。

悪霊の束縛から解放された喜び

悪霊にとりつかれ、精神病院にまで入院した
事は、一時とてもショックでした。しかし、こ
の体験を通して真の神様を、そして私が拜んで
いた台所の神や仏壇、又ユタが恐ろしい悪霊で

ある事を身をもって知る事が
できました。当時を回想しま
すと恐ろしさで、ぞっとする
ばかりです。多くの人々は病



気、不幸、災難があるとユタ
に行き、占いが当たるから神様だと信じていま
す。かつては私もそうでした。それが悪魔のわ
なです。ユタの背後でいろいろ教えているのは
悪霊なのです。私が亡くなった身内や身近な人
達の声だと思ったのが、そうではなく悪霊だっ
たのです。そして狂人のようになってしまった
私を、その時、助けてくださったのは、イエス
様だったのです。狂人となって一生を終わるの
をお助けになったのはイエス様だったのです。
私はまだこのことを御存知ない方に、声を大に
して申し上げたいのです。真の神様は、真の救
い主はイエス様ですと。私は悪霊のわなから
救ってくださった真の神様に心から賛美をささ
げるとともに、このことを多くの人々に証した
いと思います。



追記：

現在、福地姉妹はサンライズミニストリーで元気に暮らしておられます。この証しを初めてするように頼まれた当時、夜中におなかが切られるように痛くなり、痛くて痛くてたまらなかったそうです。証しをしないようにとの猛攻撃がある中、誰かがこの悪魔に取りつかれては大変と思い、祈りながら証しを書き上げたそうです。その証しの後からはそれまでのような苦しみは全くなくなったそうです。

「持病のぜんそくも癒してくださって、大きな大きなお恵みです。ただただ神様の大きな憐れみです」。

(著者)